



発電機

MRO 2600 [50Hz/60Hz]

【取扱説明書】

※ご使用前に、必ず取扱説明書・本体ラベルをお読みにになり、内容を理解してからお使いください。



1. おねがい

発電機をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本書では、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取扱い方法と簡単な点検・調整について明記しております。万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因になります。安全と環境のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、ご使用前に必ず本書を最後まで読んでください。なお、ご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用ください。

* 本書では、正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



-安全に係る注意情報を意味します。



警告 - 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示しています。



注意 - 取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示しています。

- ・仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部商品と異なる場合があります。
- ・本書は大切に保管し、わからないことや不具合がおこったときに読んでください。

2. 目次

1. おねがい	P.2	10. 点検・調整	P.13 ~ P.17
2. 目次	P.2	エンジンオイルの交換	P.13
3. 安全にお使いいただくために	P.3	スパークプラグの点検と清掃	P.14
警告	P.3	燃料タンクストレーナーの清掃	P.15
注意	P.3	マフラーワイヤネットの清掃	P.15 ~ P.16
4. 各部の名称と取扱いの説明	P.4 ~ P.5	エアクリーナーエレメントの清掃	P.16 ~ P.17
5. お使いになる前に	P.6	フューエルストレーナーの清掃	P.17
燃料（無鉛ガソリン）の給油	P.6	11. 故障診断	P.17
エンジンオイルの給油	P.6	エンジンが始動しないとき	P.17
6. 正しい運転操作方法	P.7 ~ P.10	電気が出ないとき	P.17
エンジンの始動	P.7 ~ P.8	12. 運搬	P.18
交流電源の取り出し方	P.8 ~ P.9	13. 保管・収納	P.19 ~ P.20
交流電源の使用可能範囲	P.9	保管	P.19
エンジンの停止	P.10	収納	P.20
7. 点検	P.10	14. 仕様詳細	P.20
8. 始業点検	P.11	15. 結線図	P.21
燃料（無鉛ガソリン）の点検	P.11		
エンジンオイルの点検	P.11		
9. 定期点検リスト	P.12		

3. 安全にお使いいただくために —必ずお守りください—

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書および商品本体に貼付されているラベルすべてを読み、正しく使用してください。商品の知識、安全の情報そして注意事項のすべてを読んでから使用してください。

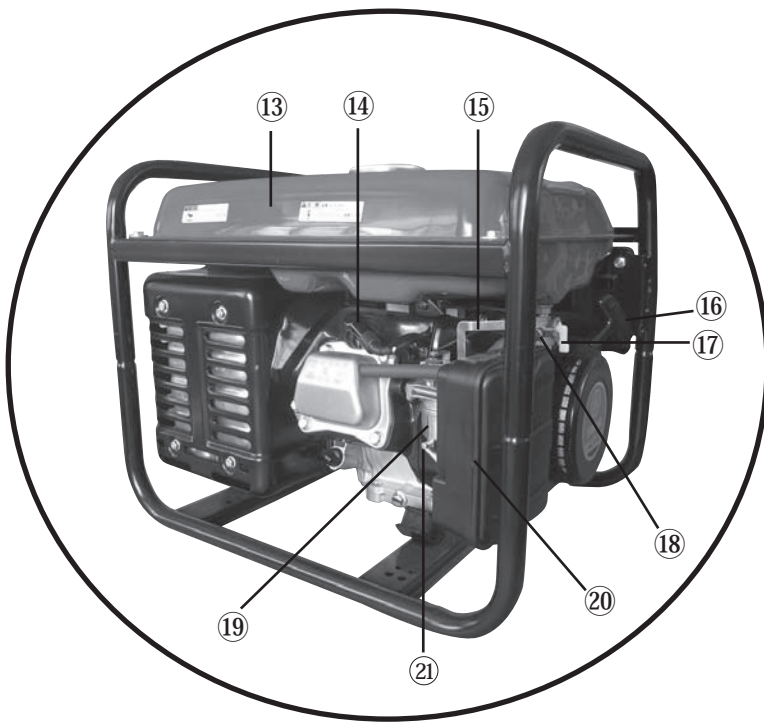
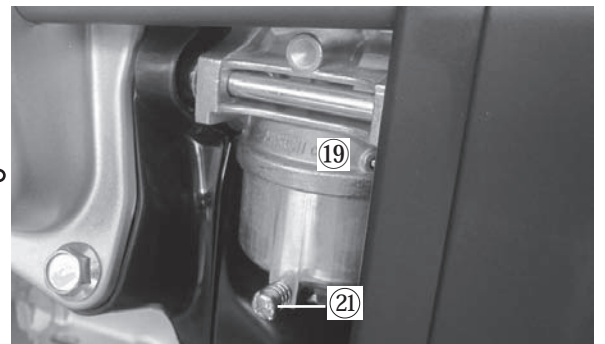
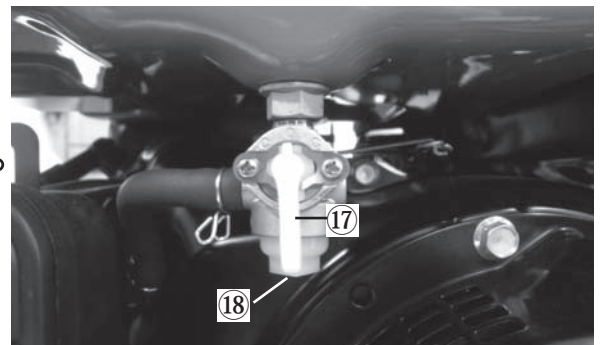
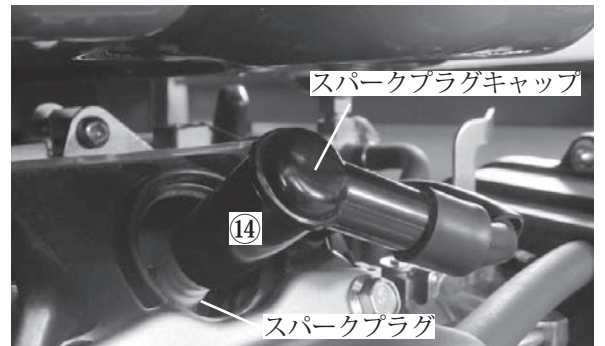
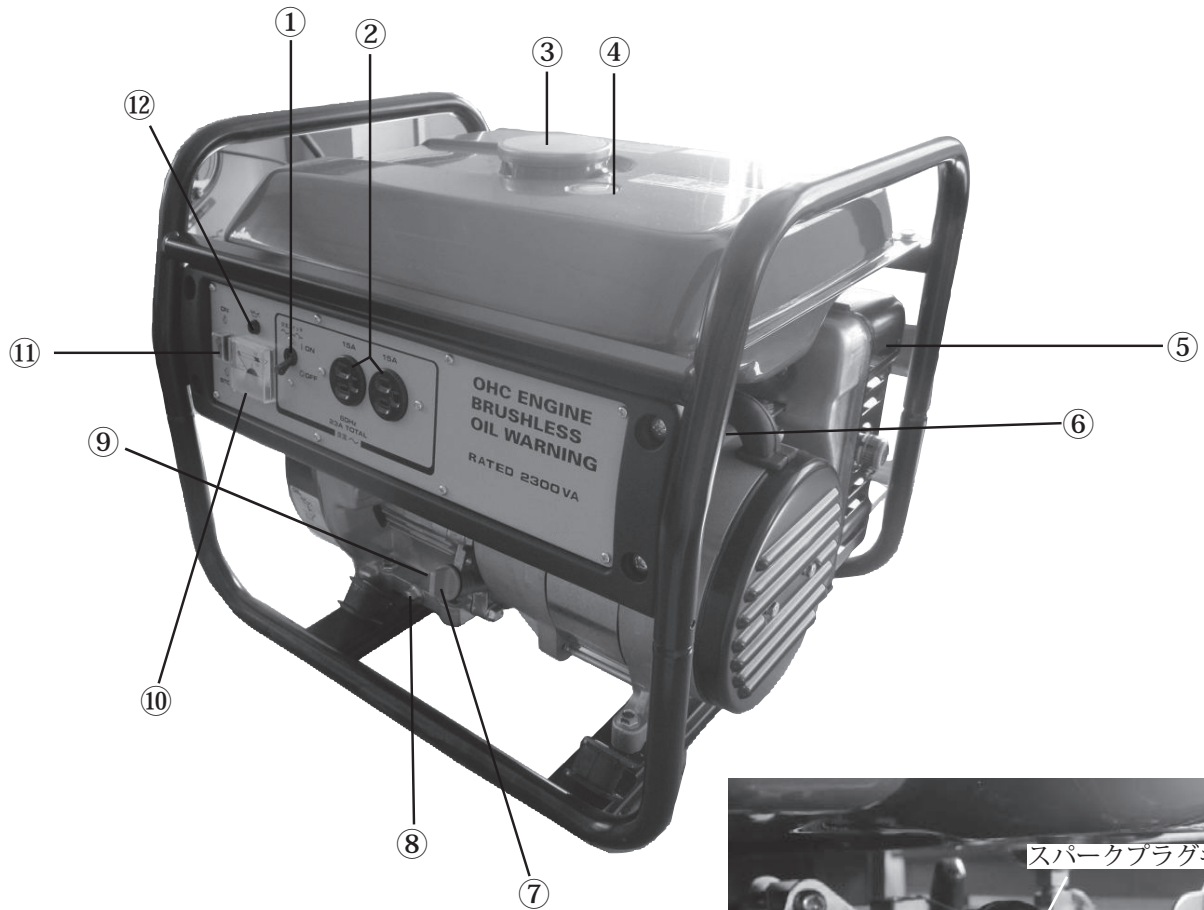
警告

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれがあるので、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいます。そのため室内、倉庫、トンネル、井戸、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物、または風通しの悪い場所など排気ガスがこもる場所で使わないでください。
- 商品の周囲を囲んだり、箱をかぶせないでください。
- 商品の上に物を乗せないでください。
- 火傷のおそれがあるので、使用中や使用直後はマフラー部分が熱いのでマフラーやマフラー周辺のプロテクターには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれがあるので、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれがあるので、電力会社の電気配線に接続しないでください。もし接続してしまうと電気機器や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれがあるので、濡れた手で商品の操作をしないでください。
- 感電のおそれがあるので、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれがあるので、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれがあるので、改造したり、部品を取り外したまま使わないでください。
- 商品を他人に貸すときは、必ずこの取扱説明書も一緒に渡してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれがあるので、排気口を建物や設備から1メートル以上離して使ってください。
- 火災のおそれがあるので、燃料の給油はエンジンを停止してから行なってください。燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取扱いには十分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを必ず確認してください。
- 火災のおそれがあるので、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類に付着した場合は、石鹼と水ですぐに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、もしくは燃料が目に入ったりした場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

注意

- けがのおそれがあるので、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれがあるので、運転中の移動はやめてください。
- けがのおそれがあるので、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれがあるので、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれがあるので、雨や雪の中では使わないでください。
- 感電、けがのおそれがあるので、子供に使わせないでください。
- 感電、けがのおそれがあるので、エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。
- 火災のおそれがあるので、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）が無いか確認してください。
- 火災のおそれがあるので、定格出力を超えた過負荷で使わないでください。
- 火災のおそれがあるので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部分が十分に冷えてから行なってください。
- 火災のおそれがあるので、燃料の種類と規定容量を守って使ってください。
- 商品を自動車などで運ぶときは、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は、必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、ただちにエンジンを停止してください。

4. 各部の名称と取扱いの説明



各部の名称

- ①交流スイッチ ②交流コンセント ③燃料タンクキャップ ④燃料残量計 ⑤マフラー ⑥アース端子
 ⑦オイルプラグキャップ (オイル注入口) ⑧オールドレンボルト ⑨オイル警告装置 ⑩電圧計 (Vメーター)
 ⑪エンジンスイッチ ⑫オイル警告ランプ ⑬燃料タンク ⑭スパークプラグ/スパークプラグキャップ ⑮チョークレバー
 ⑯始動グリップ ⑰燃料コックレバー ⑱ストレーナーカップ ⑲キャブレター ⑳エアクリーナー ㉑ ドレンねじ

取扱いの説明

①交流スイッチ

- ON —— 交流電源が取り出せます。
OFF —— 交流電源が取り出せません。

! 注意

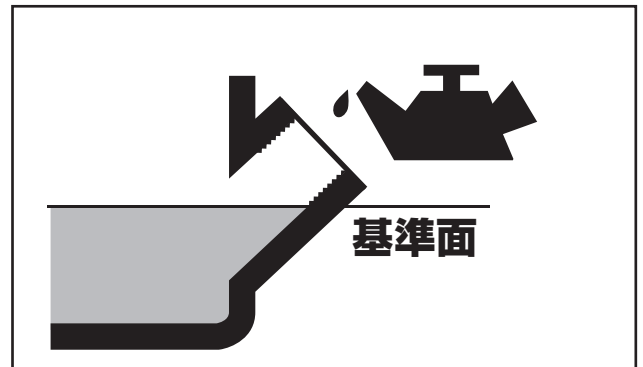
- ・電気機器を使用中に交流スイッチが OFF になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。電気機器を使用中に定格以上の電流が流れると自動的に交流スイッチは OFF になります。再び使用するときは交流スイッチを ON にしてください。

⑥アース端子

- 感電防止のアース線を取り付ける端子です。アース端子から大地にアースを接地してください。
使用器具をアースした時は、発電機も必ずアースしてください。

⑨オイル警告装置

- エンジンオイル量が少なくなり潤滑不足になる前に、自動的にエンジンが停止します。エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止した場合は、始動グリップを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認してエンジンオイルを図の「基準面」まで給油してください。



! 注意

- ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。
- ・エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態で行なってください。
- ・こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

⑩電圧計（Vメーター）

- 電圧計（Vメーター）はエンジン運転中に発生する電圧を針の振れで示します。

⑪エンジンスイッチ

- 点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行ないます。

! 注意

- ・使用しないときは、必ずエンジンスイッチをSTOPの位置にしてください。

⑫オイル警告ランプ（赤色）

- オイル警告ランプは運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し、自動的にエンジンが停止します。
また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっていると始動グリップを引いてもオイル警告ランプが点灯し、エンジンは始動しません。

⑮チョークレバー

- エンジンが冷えている状態で始動するときは「始動」の位置にしてください。(P.7 参照)
エンジンを運転するときは「運転」の位置にしてください。(P.8 参照)

⑯始動グリップ

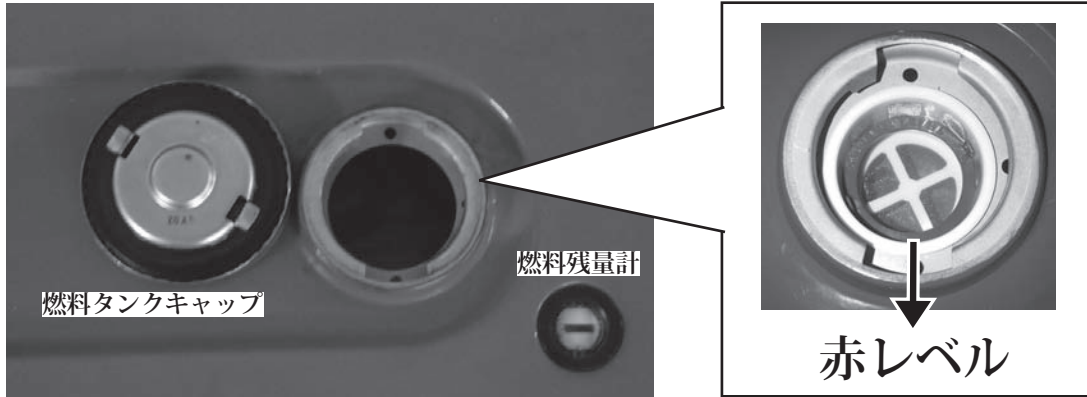
- 始動グリップは、エンジンを始動させるときに使います。

⑰燃料コックレバー

- 燃料コックレバーは燃料の流れを制御します。
発電機を運転しているときは「ON」の位置にしてください。(P.7 参照)
発電機を停止しているときは、「OFF」の位置にしてください。(P.10 参照)

5. お使いになる前に

燃料（無鉛ガソリン）の給油



燃料タンクキャップを外し、燃料（無鉛ガソリン）を赤レベルまで給油します。
【燃料タンク容量】10 L（赤レベルまで）

警告

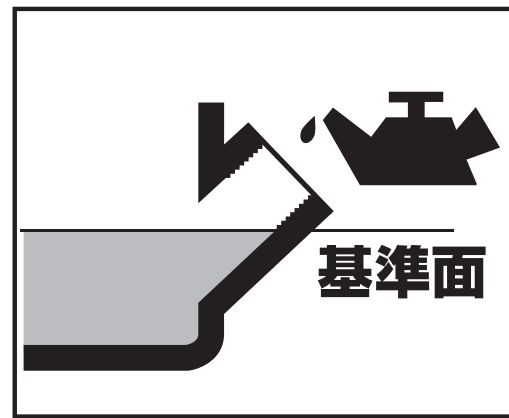
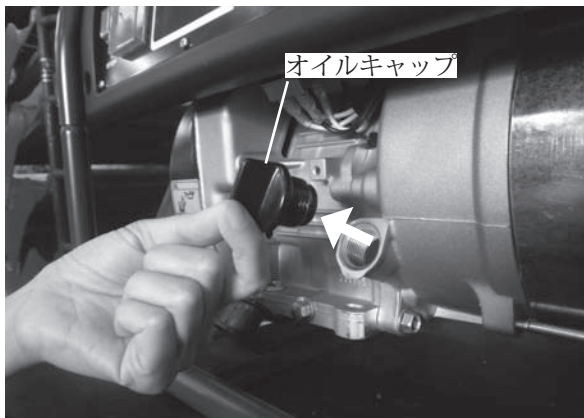
燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ず守ってください。

- ・給油は、必ず換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。
- ・給油中は、必ずタバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また静電気が発生しないように注意してください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、もしくは燃料が目に入ったりした場合は、すぐに医師の診察を受けてください。また燃料が皮膚や衣類に付着した場合は石鹸と水ですぐに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・燃料タンクキャップは確実に締めてください。

注意

- ・燃料の給油時、燃料タンク内に水・ゴミなどが入らないように注意してください。またこぼれたときは、すぐに布きれなどできれいにふき取ってください。
- ・燃料は規定量（ストレナーの赤レベル）以上給油しないでください。

エンジンオイルの給油



使う前には、エンジンオイルを規定量給油してください。
オイルキャップを外し、エンジンオイルを基準面まで給油してください。
【オイル量】0.6 L

【推奨オイル】 4 サイクルガソリンエンジンオイル
API 規格 S E 級エンジンオイル
SAE 10W-30 S E 級

注意

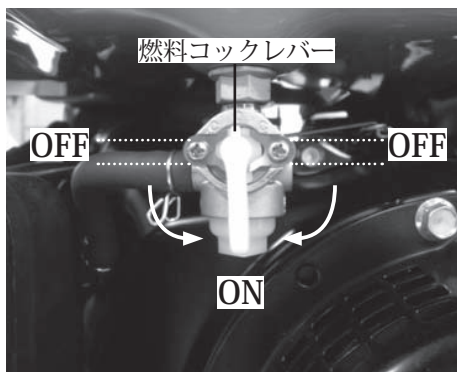
- ・お客様の手元に届いたときにはエンジンオイルが給油されていないので給油してください。
- ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。

6. 正しい運転操作方法

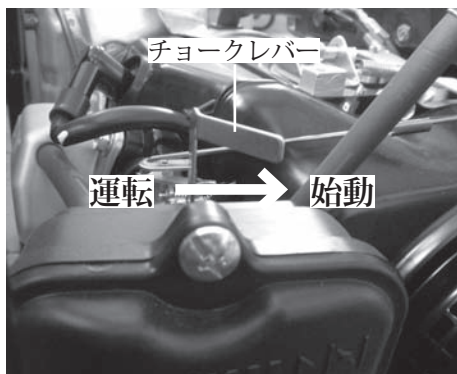
エンジンの始動



- ・換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
- ・エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。



- (1) 燃料（無鉛ガソリン）の量を点検してください。
- (2) 燃料コックレバーを「ON」の位置にしてください。



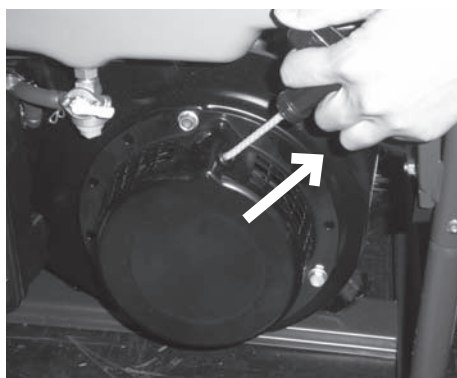
- (3) チョークレバーを「始動」の位置にします。
エンジンが暖まっているときは、チョークレバーは「始動」にする必要はありません。



- (4) 交流スイッチを「OFF」の位置にします。



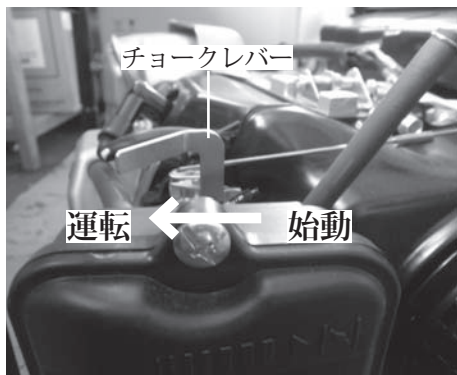
- (5) エンジンスイッチを「ON」の位置にします。



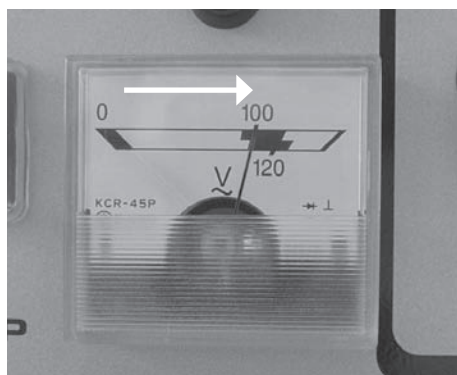
(6). 始動グリップを軽く引き出し、始動グリップが重くなった状態で勢いよく引いてエンジンを始動します。キャブレターに燃料を送るため、始動グリップを10回程引いてください。

⚠ 注意

- ・始動グリップを引くときは、発電機が倒れないように手で発電機を押さえてください。
- ・始動グリップを戻すときは、ゆっくり戻してください。
- ・始動グリップを数回引いてもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「運転」の位置にして始動グリップを引いてください。

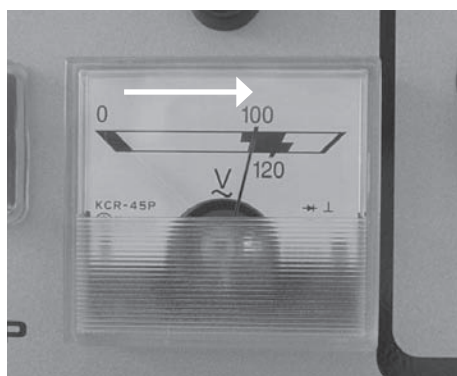


(7). エンジン回転数が安定したらチョークレバーを「運転」の位置にしてください。
 (8). 必ず暖機運転を10分間以上行ってください。



(9). 電圧計の針が100V付近を示しているか確認します。

交流電源の取り出し方



(1). エンジンを始動してください。
 (2). 電圧計の針が100V付近を示しているか確認してください。



(3). 電気機器のプラグを交流コンセントに差し込みます。
 ※ 2口合計消費電流:23A(60Hz仕様) / 20A(50Hz仕様)

⚠ 注意

- ・電気機器のスイッチが「OFF」の位置になっていることを必ず確認した後に差し込んでください。



(4) 交流スイッチを「ON」の位置にします。

交流電源の使用可能範囲

交流電源の使用可能範囲は下記の表になります。使用する電気機器の消費電力（W）をお確かめの上ご使用をお願いします。

電 気 機 器	使用可能範囲		備 考
	50Hz	60Hz	
照明・電熱器・ラジオ・ テレビ・ステレオなど	AC100V、2,000W まで	AC100V、2,300W まで	力率 = 1
電動工具	AC100V、1600W まで	AC100V、1,840W まで	力率 = 0.8-0.95
汎用モーター	AC100V、1000W まで	AC100V、1,150W まで	力率 = 0.4-0.75

! 注意

- ・電気機器の合計負荷が発電機の使用可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因になります。
- ・医療機器を使用する場合は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認してください。
- ・電気工具類・汎用モーター類の一部には、使用可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使えないことがあります。
この場合は電気機器メーカーまたは電気機器販売店に相談してください。
- ・使用可能範囲を超えたとき、交流スイッチが「OFF」になりますので、電気機器の容量を再確認してください。

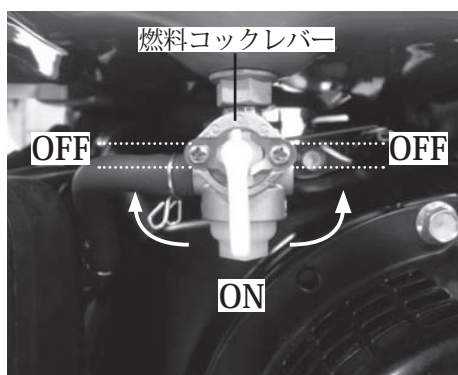
エンジンの停止



- (1). 電気機器のスイッチを OFF にしてください。
- (2). 電気機器のプラグをコンセントから抜いてください。
- (3). 交流スイッチを「OFF」の位置にしてください。



- (4). エンジンスイッチを「STOP」の位置にしてエンジンを停止してください。



- (5). 燃料コックレバーを「OFF」の位置にしてください。

7. 点検

●お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために必ず実施してください。

⚠ 警告

- ・エンジン運転中や停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクターやエキゾーストパイプなどがかなり熱くなっています。手足で直接触れないでください。火傷の原因になります。
- ・排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所、風通しの悪い場所、室内ではエンジンを始動して点検はしないでください。
- ・重大な事故・故障の原因になりますので、始業点検・定期点検を必ず実施してください。

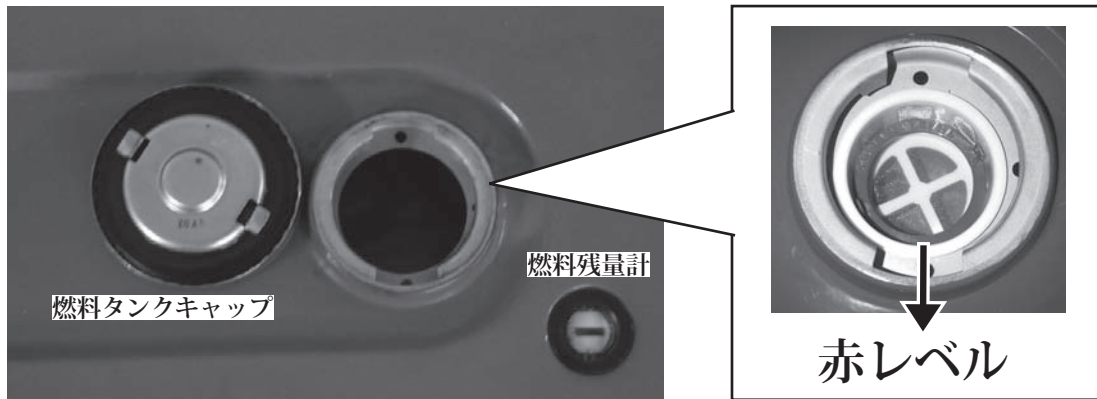
8. 始業点検

燃料（無鉛ガソリン）の点検

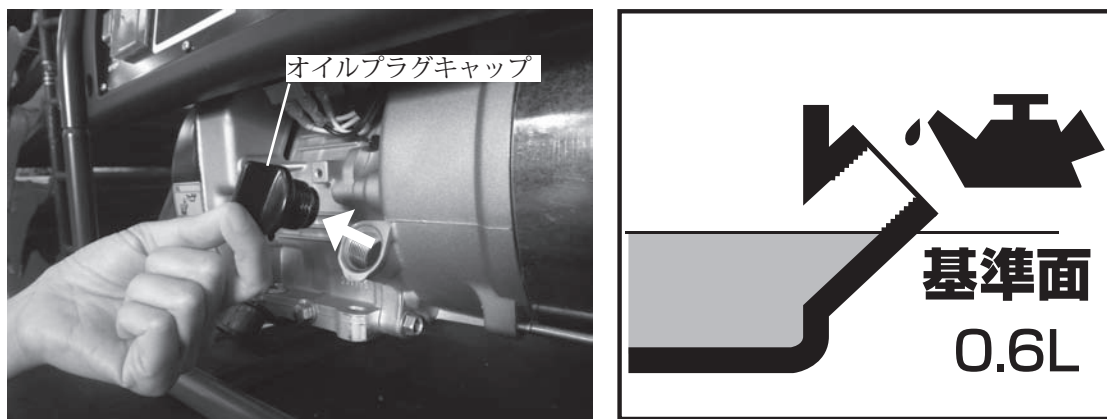
燃料残量計で点検してください。または燃料タンクキャップをゆるめて外して点検してください。

【燃料タンク容量】10L(赤レベルまで)

- ・燃料はゆっくり給油してください。
- ・燃料は全部なくなる前に、補給してください。



エンジンオイルの点検



オイルプラグキャップを外し、エンジンオイルがオイル基準面までであるか点検してください。

エンジンオイルが基準面より少ない場合は、4サイクルガソリンエンジンオイルを図の「基準面」まで給油してください。

⚠ 注意

- ・エンジンオイルを基準面以上に給油しないでください。
- ・エンジンオイルの給油は必ず発電機本体を水平状態にして行ってください。
- ・こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

9. 定期点検リスト

点検部品	点検項目	始業点検	6ヶ月毎または50時間運転毎	12ヶ月毎または150時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○ (注1)	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認		○	
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エアークリーナ	点検、清掃		○ (注2)	
マフラーワイヤネット	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナー	清掃			○
シリンダーヘッド部分	カーボンの除去			●
バルブクリアランス	点検			●
エンジン回転	調整			●
本体各部	各部の緩み確認			●
前回の作業で異状が認められた部分		○		

注1……初回は1ヶ月目または20時間運転時に実施してください。

注2……ほこりが多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めの点検をお願いします。

● ……この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要とします。

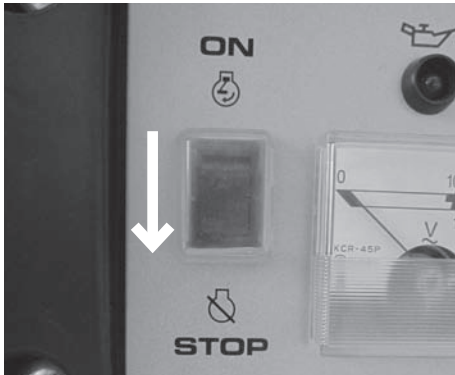
10. 点検・調整

エンジンオイルの交換



- ・油脂類の廃液は法令（廃棄物の処理及び清掃に関する法律、いわゆる廃棄物処理法）および条例（公害防止条例など）によって適切な処理を行なうことが義務づけられています。そのため法令および各地域の条例にもとづいて処理を行なってください。
- ・初回は 20 時間目、その後は 100 時間毎に交換してください。

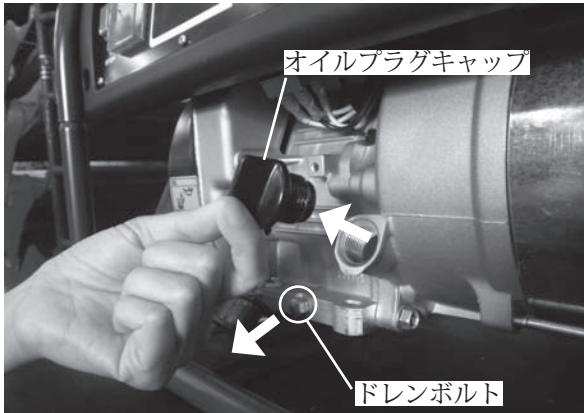
(1). エンジンを始動し 2 ～ 3 分暖機運転をしてください。



(2). エンジンスイッチを「STOP」の位置にしてエンジンを停止してください。

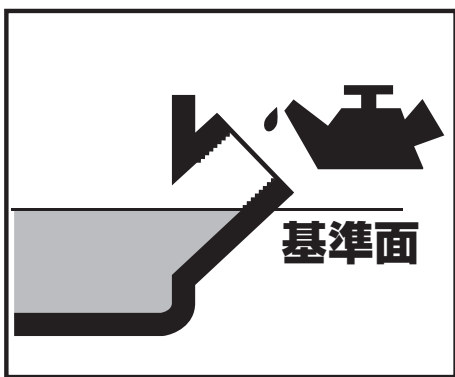


- ・エンジン停止直後は、エンジンオイルが非常に熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。



- (3). オイルプラグキャップ、ドレンボルトを外してください。
排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意してください。
- (4). 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜いてください。

(5). ドレンボルトを締め付けてください。



(6). 新しい 4 サイクルガソリンエンジンオイルを基準面まで規定量給油します。

【オイル規定量】 0.6L

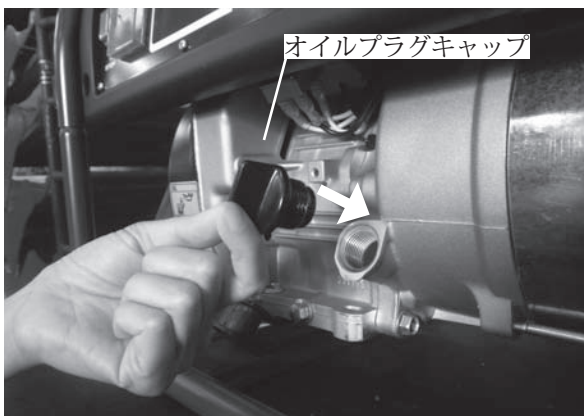
【推奨オイル】 4 サイクルガソリンエンジンオイル

API 規格 SE 級エンジンオイル

SAE 10W-30 SE 級



- ・エンジンオイルを規定量以上に給油するとエンジン不調になるおそれがあります。
- ・エンジンオイルの給油は必ず発電機本体を水平状態にして行ってください。
- ・こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。



(7). オイルプラグキャップを締め付けてください。

スパークプラグの点検と清掃

●スパークプラグは、重要部品です。スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的に点検を行なってください。



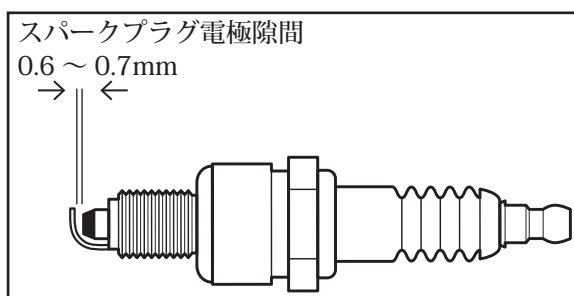
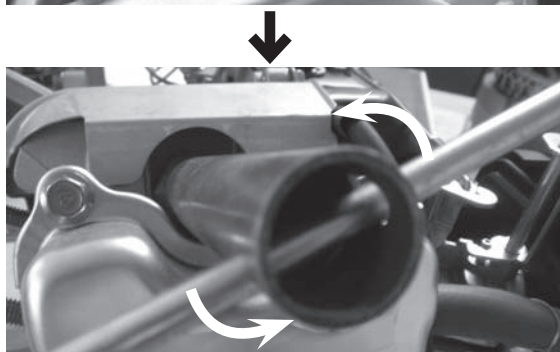
(1) エンジンスイッチを「STOP」の位置にしてエンジンを停止してください。



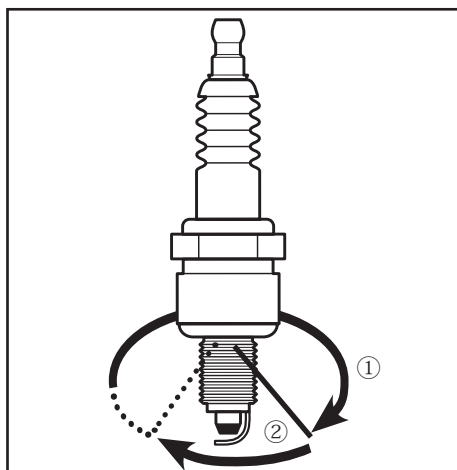
(2) スパークプラグキャップを取り外し、スパークプラグを外してください。

警告

スパークプラグの脱着の際には、碍子（がいし）を損傷させないように注意してください。碍子が損傷してしまうと、ショートして火災等を誘発するおそれがあります。



- (3) スパークプラグ電極部分の焼け具合を確認します。通常はキツネ色に焼けますが黒くすすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリナーを点検してください。
- (4) 電極付近の汚れ（カーボン）を落としてください。
- (5) 電極隙間を点検してください。



(6) トルクレンチ（別売）を使ってスパークプラグを締め付けてください。

【スパークプラグの締め方】

- ・トルクレンチを使って 15.0N・m— 25.0N・m の値で締めてください。
- ・トルクレンチがないときは、手でいっぱい締めた後①、プラグレンチを使い、1/4—1/2 回転②の方向に締めてください。

(7) スパークプラグキャップを取り付けてください。

燃料タンクストレーナーの清掃

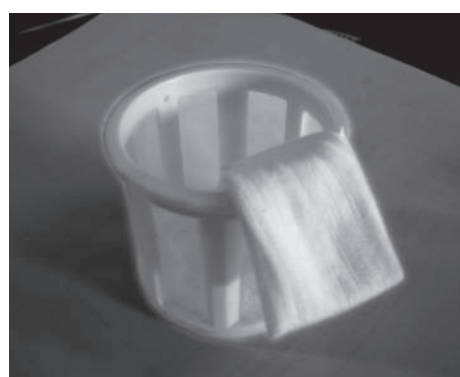
●ストレーナーが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっている可能性があります。



(1). エンジンスイッチを「STOP」の位置にしてエンジンを停止してください。

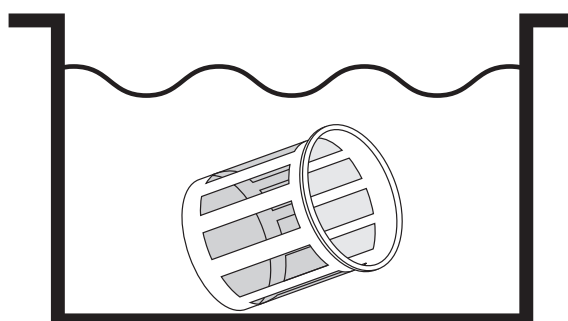


(2). 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外してください。



(3). ガソリンを使ってストレーナーを洗浄してください。

(4). ストレーナーをふいて挿入してください。

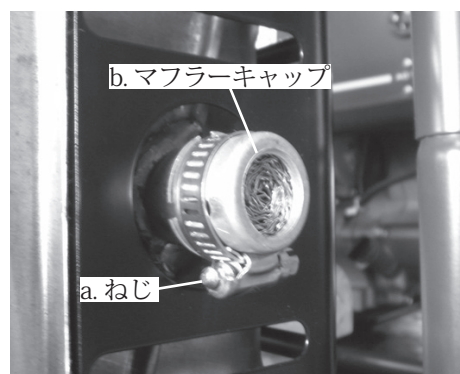


(5). 燃料タンクキャップを取り付けてください。

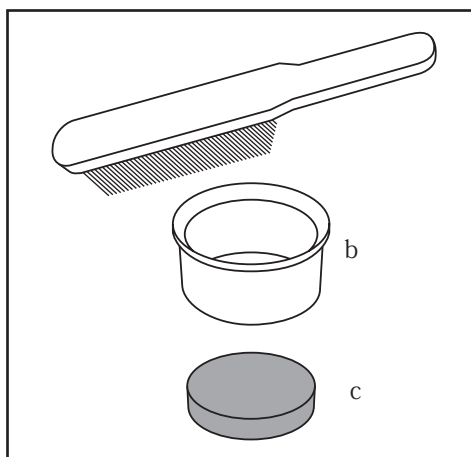
! 注意

・燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

マフラーワイヤネットの清掃



(1). a ねじをゆるめて b マフラーキャップと中にあるマフラーワイヤネットを外してください。



(2). ワイヤブラシ (別売) などを利用して、b マフラーキャップと c マフラーワイヤネットの汚れを取り除いてください。

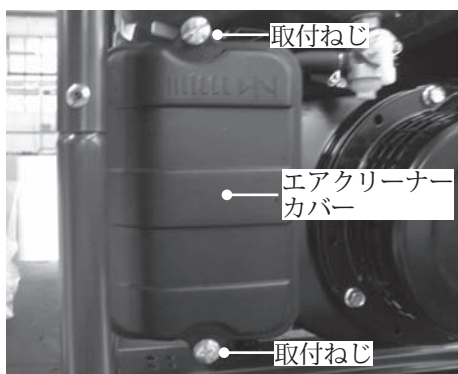
(3). マフラーワイヤネットとマフラーキャップを取り付けてねじを締めてください。

エアクリナーエレメントの清掃

●ほこりが多い場所で使用したときは、定期点検時期より早めの清掃をお願いします。

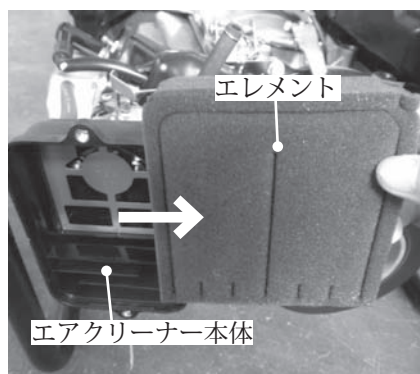


(1). エンジンスイッチを「STOP」の位置にしてエンジンを停止してください。



(2). エアクリナーカバーを固定している取付ねじを外してください。

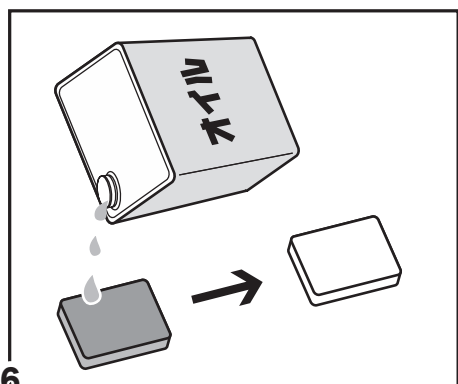
(3). エアクリナーカバーを外してください。



(4). エレメントを外してください。

警告

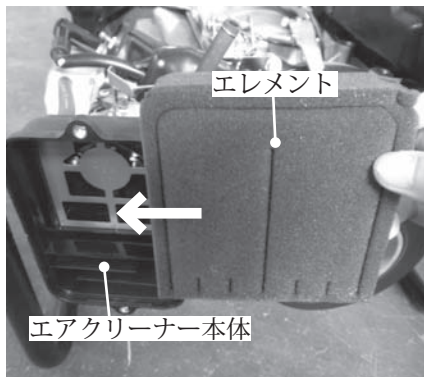
油脂類の廃液は法令（廃棄物の処理及び清掃に関する法律、いわゆる廃棄物処理法）および条例（公害防止条例など）によって適切な処理を行なうことが義務づけられています。そのため法令および各地域の条例にもとづいて処理を行なってください。



(5). エレメントをきれいな混合油(白灯油 2～4：エンジンオイル 1)で洗浄してください。
 (6). エレメントをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除いてください。

注意

エレメントは絶対にきつく絞りすぎないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。



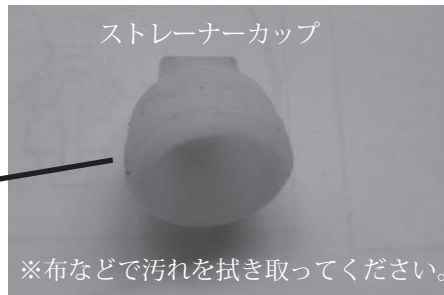
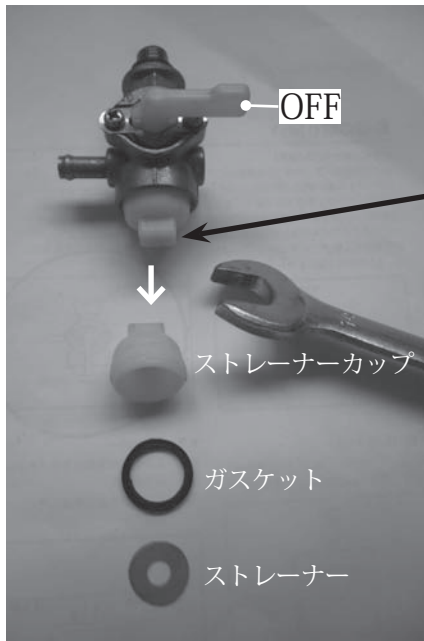
(7). エレメントをエアクリナー本体にはめ込んでください。

⚠ 注意

エアクリナーエレメントを取り付けていない状態では絶対にエンジンを始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

(8). エアクリナーカバーを取付けて、ねじを締め付けてください。

フューエルストレーナーの清掃



※布などで汚れを拭き取ってください。

(1). 燃料コックレバーを「OFF」の位置にします。

(2). ストレーナーカップを取り外してください。

ストレーナーカップにゴミがあるときは定期点検時期よりも早めの清掃をお願いします。

(3). ガスケット、ストレーナーを取り外してください。

(4). ストレーナーカップ、ストレーナーをガソリンで洗浄してください。

⚠ 警告

タバコの火や他の火種になるようなものを絶対に近づけないでください。

(5) ガスケットを点検してください。

(6) ストレーナー、ガスケットおよびストレーナーカップを元通りに取り付けてください。

(7) 取付後は燃料漏れをしていないことを確認してください。

⚠ 警告

取り付けが悪い場合には燃料もれをおこし、火災や爆発の原因になる恐れがあります。

11. 故障診断

エンジンが始動しないとき

(1) 燃料系統 (燃料が供給されていない)

- ・燃料タンクが空になっている……………燃料 (無鉛ガソリン) を補給してください。(P.6)
- ・燃料パイプが目詰まりしている……………燃料パイプを清掃してください。
- ・燃料コックレバーに異物が混入している……………燃料コックレバーを清掃してください。
- ・キャブレターが目詰まりしている……………キャブレターを清掃してください。

(2) 電気系統 (火花不足)

- ・スパークプラグが汚れている……………スパークプラグを乾燥させて清掃してください。(P.14)
- ・スパークプラグにカーボンが付着している……………カーボンを除去してください。(P.14)

(3) 潤滑系統 (オイル不足)

始動グリップを引くとオイル警告ランプが点滅する……………エンジンオイルを補給してください。(P.6)

電気が出ないとき

- ・交流スイッチが「OFF」の位置になっている……………交流スイッチを「ON」の位置にしてください。

12. 運搬

●発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬するときは、下記の事項を守ってください。

警告

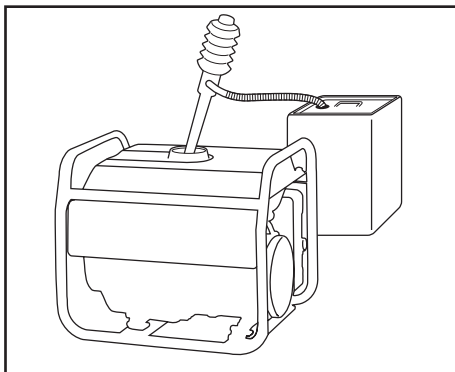
- ・振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（無鉛ガソリン）がこぼれる可能性がありますので、燃料タンクに燃料を給油したままでは絶対に運搬しないでください。
- ・燃料が気化して引火する可能性がありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、直射日光の当たる場所に絶対に放置しないでください。
- ・火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した携帯タンクに入れて保管してください。

注意

- ・発電機の上には重い物を置かないでください。



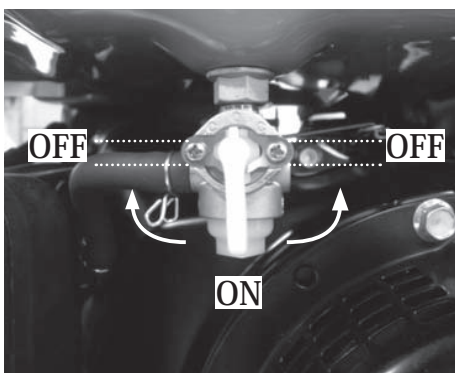
(1). エンジンスイッチを「STOP」の位置にしてください。



(2). 燃料タンク内の燃料を抜いてください。

警告

- ・燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- ・こぼれた燃料は、すぐに布きれなどで完全に拭き取ってください。



(3). 燃料コックレバーを「OFF」の位置にしてください。

(4). 発電機をロープなどで確実に固定してください。

注意

- ・発電機が移動、転倒、落下、破損などをしないように注意して積載してください。

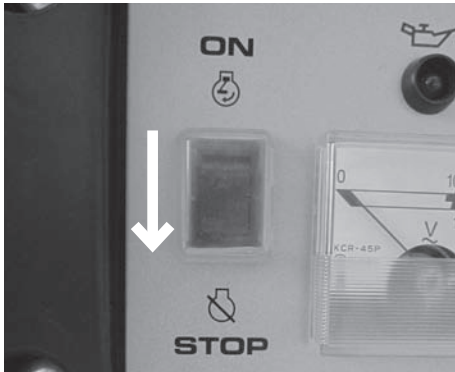
13. 保管・収納

保管

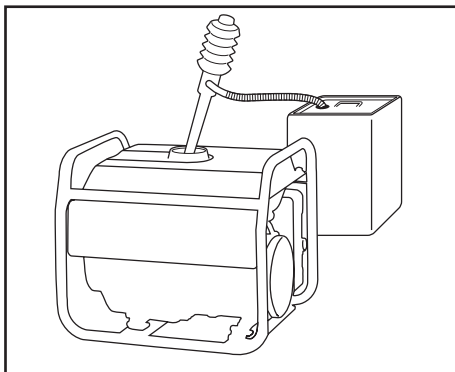
●使用後または定期運転後、次の使用が1ヶ月後以降になるときは、下記の作業を行なったうえで保管し、次に使用するときにご準備ください。

⚠ 注意

- ・燃料（無鉛ガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。
- ・排出する燃料を受け取る容器（消防法に適合した携帯タンク）を必ず用意してください。



(1). エンジンスイッチを「STOP」の位置にしてエンジンを停止してください。

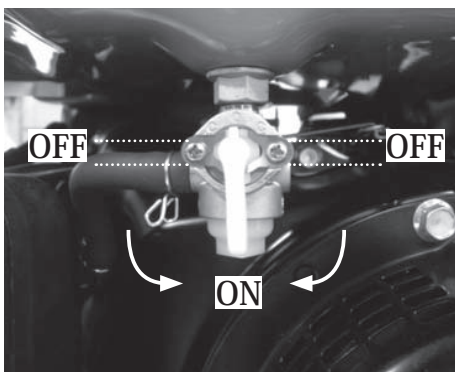


(2). 燃料タンク内の燃料を抜いてください。

⚠ 警告

- ・燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- ・こぼれた燃料は、すぐに布きれなどで完全に拭き取ってください。

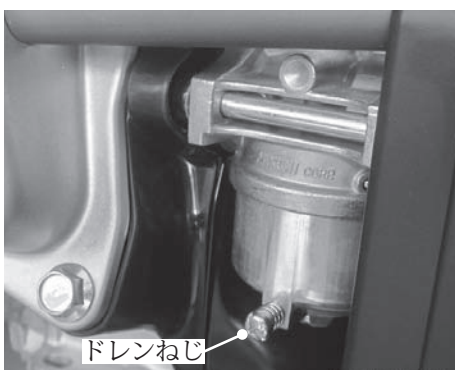
(3). エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。



(4). 燃料コックレバーを「OFF」の位置から「ON」の位置にしてください。

(5). エンジンを始動してください。約 20 分後エンジンは「ガス欠状態」となって停止します。

- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転になります）
- 燃料タンク内の燃料残量により「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。



(6). キャブレターのドレンねじをドライバ ⊕ でゆるめて燃料を抜いてください。

⚠ 注意

- ・こぼれた燃料は、すぐに布きれなどで完全に拭き取ってください。

(7). エンジンスイッチを「STOP」の位置に、燃料コックレバーを「OFF」の位置にしてください。

(8). ドレンねじを締め付けてください。

(9). ゆるみがあれば各ボルト・ナットを増し締めしてください。

(10). 室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管してください。

収 納

●長期間にわたって使用しないときは、下記の作業を行ってから収納し、次に使用するときに備えてください。

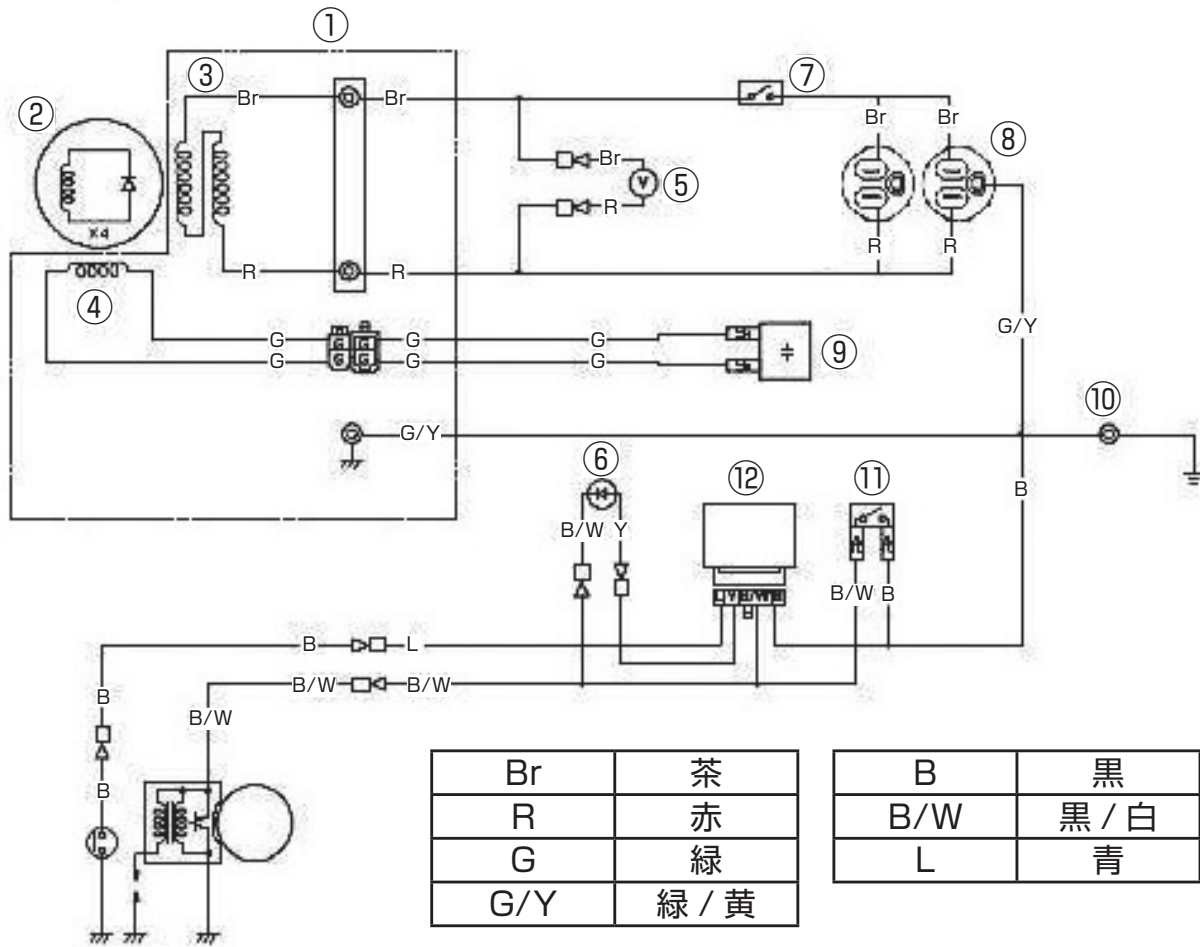
- (1). 保管 (P.19) の 1 から 10 の作業を行なってください。
- (2). スパークプラグを外し、プラグ穴よりエンジンオイルを 3 ～ 5ml 給油してください。
- (3). 始動グリップを 3 ～ 5 回引いたあとに、スパークプラグを取り付けてください。
- (4). 始動グリップを引き、重くなった状態 (圧縮状態) にしてください。
- (5). 各部をきれいに清掃してください。
- (6). 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管してください。

14. 仕様詳細

名 称		MRO2600	
発 電 機	交 流 (AC)	定格周波数	50Hz / 60Hz
		定格出力	2.0kVA / 2.3kVA
		定格電圧	AC100V
		定格電流	20A / 23A
エ ン ジ ン	エンジン種類	空冷 4 サイクル OHC エンジン	
	点火方式	TCI 点火	
	スパークプラグ	NGK BPR4ES	
	プラグキャップ	0.7-0.8mm	
	総排気量	169cc	
	使用燃料	無鉛ガソリン	
	推奨オイル	API 規格 SE 級以上エンジンオイル (SAE 10W-30)	
	エンジンオイル規定量	0.6L	
	始動方式	リコイルスターター	
ガソリンタンク容量 (赤レベル)		10L	
定格連続運転時間 (赤レベル)		約 8.8 時間 / 約 7.5 時間	
本体重量		41kg	
本体サイズ		525 × 425 × 470 mm	
騒音レベル (7m)		65dB (A) / 68 dB (A)	

15. 結線図

MRO 2600 [50Hz/60Hz]



- ① スターターアッセンブリー
- ⑨ コンデンサ
- ② ローターアッセンブリー
- ⑩ アースターミナル
- ③ メインコイル
- ⑪ エンジンスイッチ
- ④ サブコイル
- ⑫ オイル警報器
- ⑤ 電圧計
- ⑥ オイル警告ランプ
- ⑦ ブレーカー
- ⑧ 交流コンセント

株式会社 MonotaRO

<http://www.monotaro.com/>

兵庫県尼崎市西向島町231-2GLP尼崎3F

TEL:0120-443-509